



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第50巻第
1号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第50巻第1号). 泌尿器科紀要 2004, 50(1): 70-70

ISSUE DATE:

2004-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/113280>

RIGHT:

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editorの責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 採択論文：論文が採択された場合、原稿を3.5インチフロッピーディスク・MOディスク・CD-R・CD-RWのいずれかに保存し、編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windowsの場合はMS-Word・一太郎、またMacintoshの場合はEG-Word・MS-Wordとし、特にMacintoshにおいてはMS-DOSテキストファイルに保存して提出すること。
6. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円、英文は6,500円、超過頁は1頁につき7,000円、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円、6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
8. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編集後記

「白い巨塔」の視聴率が高い、教室員のなかでも毎週欠かさず見ているものが多い。某女性教室員は木曜日夜10時になると医局のテレビの前を離れないと聞いている。何故今「白い巨塔」人気なのか。ここ数年、メディアで頻回に取り上げられてきた医療事故に大学病院がかなりの数かかわっていることに無関係ではないであろう。また、医療事故で問題になるカルテ改ざんなどの密室性が、これまで医学教育を担ってきた大学医学部の体質によるものではないかという国民の危惧も視聴率アップにつながっていると思う。

くしくも今年は卒後臨床研修必修化と大学の独立法人化が始まる。社会の批判を浴びている医局制度はここ数年で劇的に変貌せざるを得ない。良きにつけ悪しきにつけオーガナイズされてきた若手医師の流動性は異なったベクトルで動くようになるだろう。是非、良い方向で動いてほしいし、「人材斡旋業」として医局や教授が社会の批判にさらされないシステムが出来てほしい。また、我々大学人も大学の魅力やその果たすべき役割をもう一度真剣に考える必要があらう。

それにしても私の実感している大学医学部とテレビの内容とはかなり違っている。少なくとも私の周りの教授はみな安月給で割に合わないハードな仕事をこなしている。私の妻が所属すべきおそろしい「くれない会」も無いし、大学生の娘は居酒屋でバイトをしてお小遣いを稼いでいる。是非、財前教授や里見助教授の給与明細をテレビに映してほしい。

(小川 修)

泌尿器科紀要 第50巻 第1号 2004年1月25日 印刷 2004年1月31日 発行
 発行 小川 修 顧問 吉田 修 発行所 泌尿器科紀要刊行会
 〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 電話 (075) 752-0100
 FAX (075) 752-0190

<http://www.kiyou.jp/>

印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
